

研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2006～2009  
 課題番号：18320011  
 研究課題名（和文） 西洋中世における「美」の概念——新プラトン主義の受容と変容の史的  
 解明  
 研究課題名（英文） The Concept of “Beauty” in the history of Western Medieval  
 Philosophy: Neoplatonic Tradition and its Historical Development  
 研究代表者  
 樋笠 勝士（HIKASA KATSUSHI）  
 上智大学・文学部・教授  
 研究者番号：10208738

研究成果の概要（和文）：本研究は、平成18年度から21年度にわたる4年間の研究計画により、西洋中世における「美」の概念を、とくに新プラトン主義の受容と変容という課題に絞って、歴史研究を行うものである。本研究の独創性は「美」の概念について、古代末期思想家プロティノスに始まる新プラトン主義美学思想が、西洋中世キリスト教思想にどのような影響を与えたのかを解明する点にある。その思想の影響系列は、「美」を「光」と関係づけるキリスト教の伝統的な形而上学思想の原型をつくりだし、また典礼芸術等の芸術現象に展開する文化的基礎となる概念形成にも展開している。さらに中世の神学思想における超越概念にも影響を与える基本思想にもなっていることから、美学研究のみならず西洋中世思想研究の基礎研究にとって、本研究課題は思想史研究上の大きな意義を有するものとなる。

研究成果の概要（英文）：Our project aims at the historical studies of the concept of beauty in western medieval philosophy under the influences of Neoplatonic tradition. We analyze philosophical literature of Plotinus and his descendants and of Christian philosophers, and make clear the aesthetic problems of “beauty.” Our aesthetic viewpoints on them are on the identity between beauty and light, the medieval artifacts just as liturgical art, and the metaphysical concept of the transcendence of beauty. So, our project has significances on the historical research of aesthetics and medieval philosophy.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2007年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
総計	6,900,000	2,070,000	8,970,000

研究分野：古代中世哲学・美学

科研費の分科・細目：哲学・倫理学

キーワード：美学 西洋中世哲学 新プラトン主義 教父哲学 キリスト教思想 神秘主義  
 形而上学 芸術学

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は上智大学文学部を中心とし、関連諸分野の研究者の共同によって遂行されるが、過去に交付された科学研究費補助金による一連の中世哲学の研究成果をもとに、これを発展させることを企図している。さらに上智大学中世思想研究所の研究環境を活かし、その蔵書等の活用によって、研究領域の総合的研究及びその深化をもねらうものでもある。これらに加えて、美学研究として過去顧みられなかった中世哲学における美学研究分野を初めて開拓する野心的な試みも研究計画の意図として背景にもつものである。

### 2. 研究の目的

本研究は「美」の概念の歴史的・系譜学的な追跡調査と史的形而上学的視点の構築を目的とする。しかしそれは単に近代以降に成立した感性の学としての美学(Aesthetics)の概念やそれを拡大した広義の美学(「美学芸術学」)の淵源を文献学的に確認したり、その学的連続性を確認する作業には尽きるものではない。むしろ「神の美」へと究極する「超越の契機」として主題化されていた「美」の問題を掘り起こすことで、近代的な所謂「美学」の学問的概念を再考すると同時に、従来必ずしも十分でなかった美学的側面から、中世思想全体へと光を当てようとする試みである。こうした課題をめぐる、プラトン主義がもっていた美の超越性を更に展開し「美の形而上学」を打ち立てたプロティノス哲学及び新プラトン主義を研究の視点の基軸にすることで、中世思想への新たな史的視点を構築する。それは、同時に否定神学の系譜における世界把握の形而上学研究として、また否定神学の独自の言語表現の修辭学的研究としても貢献するものである。他方で、諸時代の文化の多様性に基づく様々な「美」の感性的な発現としての芸術作品やそれへの言説にも触れることで、形而上学的な視点が、どのようにして自由学芸の具体的な部門へ反映し学的現実と実践を為したのかを明らかにすると共に、また個々の芸術作品の表現媒体としてのあり方やその表現自体がもつ「美」の超越的性質についても明らかにすることとなる。

### 3. 研究の方法

本研究は基本的に歴史研究の方法をとる。このため文献調査が必須のこととなるが、この点で、日本唯一の中世思想研究機関としての上智大学中世思想研究所に収蔵され

ている蔵書は、西洋古代2世紀から近世初頭17世紀までの、哲学・神学・歴史・文学・芸術・教育・法学などに関するラテン語・ギリシャ語の原典、そして英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・スペイン語・オランダ語などの二次文献を豊富に含んでおり、これらを活用して時代の文化事情や社会背景までをも視野に入れた独創的且つ総合的な研究が可能となる。分担研究者も、これを考慮に入れて、哲学研究関係者のみではなく、神学、文学、社会思想、美術史等の専門家も組み込む研究者陣営を構成している。さらに、個人分担研究以外に、3グループに分けた分野別研究も歴史研究の方法として採用しており、有機的で総合的な研究方法が遂行されている。

全体的な研究の担当領域に関する指針としては、研究分担者全員が参加して行われる合同研究会を中心にしながら、並行して個々の研究を進める。分野としては、教父哲学関係における聖書解釈及び形而上学的思弁についての研究については、樋笠、荻野、O'Leary、竹内が進める。また、中世哲学関係における神秘思想と美的経験の関係についての研究については、長町、川村、Hollerichが担当する。そして、中世末期からルネサンス、及び近代にかけての神秘思想、特にクザーヌスを中心にした広汎な美の思想の研究については、佐藤、児嶋、村井が担当する。

### 4. 研究成果

個々の研究成果も充実しているが、それ以外では、教父哲学関係分野では、樋笠、荻野、O'Leary、竹内らが形而上学的中世美学思想研究に於いて、国際学会および国内の学会(ニュッサのグレゴリオス国際学会、中世哲学会、教父研究会、東方キリスト教会など)で発表・シンポジウム・論文などにて大きな成果をあげた。また中世および中世後期のキリスト教思想及び神秘思想分野では、Hollerich、長町、川村、佐藤、児嶋、村井らが、学会(美術史学会、クザーヌス学会など)にて発表・論文など実績をあげた。また荻野はオックスフォード大学に出張し、英国での研究集会に参加するとともに古代末期哲学における美の概念に関してリサーチし、その成果を学会発表及び図書公刊によって示した。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

- ① 樋笠勝士、アウグスティヌスにおける「音楽」の概念、『パトリスティカ』13号、教父研究会、2009年12月、pp. 44-84 査読有り
- ② 樋笠勝士、ストア哲学とプロティノス、『新プラトン主義研究』9号、新プラトン主義協会、2009年8月、pp. 1-4、査読有り
- ③ Katsushi HIKASA, "Augustine on the Aesthetics of Ambivalence", in *Aesthetics*, No.13, 2009, pp. 23-32. Edited by The Japanese Society for Aesthetics, 査読有り
- ④ 樋笠勝士、プロティノスにおける Pankalia の思想-「舞台としての世界」概念の原風景-『上智大学文学部哲学科紀要』34号、2008年3月、pp. 1-30、査読無し
- ⑤ 樋笠勝士、詩的言語のロゴス性、『哲学科紀要』31号、上智大学文学部哲学科、2005年、pp. 1-24、査読無し
- ⑥ Katsushi Hikasa, "Semiotics of Augustine", in *Patristica, supplementary vol. 2:Festschrift in Honour of Shinro Kato on His 80th Birthday*, eds. K. Demura and N. Kamimura (Nagoya: Shinseisha, 2006): pp. 111-133. 査読有り
- ⑦ 樋笠勝士、パンカリヤの概念とその射程-「東方キリスト教の美学」の始点として、『エイコーン』第33号、2006年7月、pp. 51-68、査読有り

〔学会発表〕(計5件)

- ① 樋笠勝士、中世哲学会シンポジウム司会：ストア派と中世哲学、中世哲学会、2009年11月15日、富山大学
- ② 樋笠勝士、「神の摂理」をめぐる問題：ストア派と教父との間の連続と不連続-アウグスティヌスを中心にして-、中世哲学会、2009年11月14日、富山大学
- ③ 樋笠勝士、アウグスティヌスにおける「音楽」の概念、教父研究会、2008年10月18日、上智大学
- ④ 樋笠勝士、新プラトン主義協会シンポジ

ウム司会：新プラトン主義とストア派、新プラトン主義協会大会、2008年9月6日、法政大学

- ⑤ 樋笠勝士、プロティノスにおけるパンカリヤの思想、美学会東部会例会、2007年3月3日、東京大学

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

樋笠 勝士 (HIKASA KATSUSHI)  
上智大学・文学部・教授  
研究者番号：10208738

### (2) 研究分担者

荻野 弘之 (OGINO HIROYUKI)  
上智大学・文学部・教授  
研究者番号：20177158

佐藤 直子 (SATO NAOKO)  
上智大学・文学部・准教授  
研究者番号：60296879

長町 裕司 (NAGAMACHI YUUJI)  
上智大学・文学部・教授  
研究者番号：90296880

O' LEARY, JOSEPH

上智大学・文学部・准教授

研究者番号：50235818

川村 信三 (KAWAMURA SHINZO)

上智大学・文学部・准教授

研究者番号：00317497

児嶋 由枝 (KOJIMA YOSHIE)

上智大学・文学部・准教授

研究者番号：70349017

竹内 修一 (TAKEUCHI SHUICHI)

上智大学・神学部・准教授

研究者番号：60349016

HOLLERICH, JEAN-C

上智大学・外国語学部・教授

研究者番号：00276510

村井 則夫 (MURAI NORIO)

明星大学・人文学部・准教授

研究者番号：20366917

(3)連携研究者

( )

研究者番号：